

子ども用



伝道地便り

2019年 第4期 南太平洋支部

第1話 「ウンチに感謝」

エチオピア

第2話 「失くした靴下と迷信」

コンゴ民主共和国

第3話 「100頭の牛を什一として献げる」

タンザニア

第4話 「パパの変化」

南スーダン

第5話 「神様かアイスクリームの選択」

ケニア

第6話 「恥ずかしがりの天使」

ケニア

ADVENTIST
MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

1. ウンチに感謝

エチオピア



アラザール・アンガー・ゲタフン 7歳

皆さんは今までトイレに行くことに対して神さまに感謝をしたことはありますか？

1月21日にエチオピアの首都アディスアベバで男の子が生まれた時、母親と父親は興奮していました。同じ日に、母親と赤ちゃんは病院から帰宅しました。

母親は赤ちゃんを抱きしめて授乳しました。母親と父親はどのような名前にするか悩んでいました。

その夜、赤ちゃんのおなかが大きくなり始めました。どんどん大きくなり続け、朝には、赤ちゃんのおなかは大い丸い風船のようになりました。

心配になり、両親は赤ちゃんを病院に戻しました。医者は何も悪いところを見つけることが出来ませんでした。しかし、赤ちゃんのおなかは大きくなり続けました。夕方には、おなかはとても大きく丸くなり、母親は触れるのを恐れました。彼女は赤ちゃんが破裂してしまうのではないかと心配

たのです。病院は赤ちゃんを大きな病院に転院させましたが、その医療スタッフもおなかが大きい原因がわかりませんでした。

医者は唯一の選択肢は手術することだと言いました。「赤ちゃんのおなかを開いて中がどうなっているのか見てみましょう」

赤ちゃんは急いで手術室に連れていかれました。

数時間後、医者は両親に「私たちは中を見て、赤ちゃんの大腸と小腸が損傷しているを見つけました」と言いました。「それで、体の右側に人工肛門用バッグのために特別な穴を開けました。彼は他の赤ちゃんとは違い、便をするたびに、袋に入るようになっています」

両親は赤ちゃんとの面会が許されませんでした。彼は小さく衰弱していて、集中治療を行う赤ちゃんのための部屋に入院しなければならませんでした。

「この赤ちゃんは重篤な状態にあります。おそらく良くならないでしょう」と医師は看護師に話しました。

そのため、看護師は「なぜ赤ちゃんの世話をする必要があるのでか」と考えました。

9日間、誰も赤ちゃんの世話をしませんでした。便が袋からこぼれ、おなかの手術の傷の上に流れました。

医者はかわいそうな赤ちゃんを見たとき、

「なぜあなたたちは赤ちゃんの世話をしていないのですか？」と看護師に尋ねました。

医者は看護師に、赤ちゃんの傷を1日に3回きれいにし、蜂蜜を塗るように指示しました。15日後、赤ちゃんは回復し始めました。

母親は赤ちゃんに会うことを許されました。母親と父親は神様に赤ちゃんが助かるように祈っていました。そして、両親は地元のアムハラ語でラザロを意味するアラザールという名前をつけました。

「ラザロと同じように、イエス様は彼を死から助けてくれました！」と父親は言いました。

生後1ヶ月で、アラザールは退院しました。彼はゆっくりですが大きく強く成長しました。彼はおなかの脇についている袋を除けば他の男の子と変わらないように見えました。

アラザールが1歳半のときに、医者はいくつかの検査をして、彼の腸が正常に見えることを確認しました。「別の手術をしましょう」と医者は言いました。

父親と母親は、手術が失敗した場合、アラザールは一生袋を付けて暮らさなければならないことを知っていました。エチオピアでは、それは非常に難しいことでした。

手術が終わった後、父親と母親は病院のベッドに横になっている小さな息子をお見舞いしました。袋は消えていて、おなかの穴は縫い閉じられていました。

「アラザールが他の赤ちゃんと同じようにウンチをした場合、手術は成功したことがわかります」と医師は言いました。「また彼がおならをしても手術が成功したことがわかるでしょう。しかし、今夜どちらか一方がなければなりません」

父親と母親は一晩中病院で待ちました。しかし、アラザールはウンチをしませんでした。また、彼はおならもしませんでした。2時間が経ちました。3時間が経ちました。

午前3時、父親と母親は泣いていました。彼らはアラザールがウンチをするように祈りました。

父親は母親に赤ちゃんを抱くように頼みました。父親が赤ちゃんのお尻をよく見ると、何かが床に落ちました。小さなアラザールがウンチをしたのです！ 父親は喜びジャンプをしました。

そして跪いて神様に祈り感謝しました。母親はとても嬉しくて感謝の言葉があふれ出ました。そして泣きました。

現在、アラザールは7歳になり、他の子どもたちと一緒にサッカーや水泳をしています。

彼に手術を思い出させる唯一のものはおなかにある2つの大きな傷跡です。

「この傷跡は、イエスさまが僕の命を救ったこ

と、そして僕がイエスさまの子どもであることを示しているんだ」と彼は言っています。「イエスさまは僕を癒してくれた人です」

アラザールはイエスさまを知っていますが、エチオピアの多くの子どもたちは知りません。今期の13回献金の一部は、子どもたちがイエスさまについて学ぶことができるよう安息日学校の教室を建設するのに使われます。

〈お話のヒント〉

- ・エチオピアのアディスアベバを地図で探してみましょう。
- ・子どもたちに、神様に感謝できることを尋ねてみてください。例えば、食べたり飲んだり、歩いたり走ったり、見たり聞いたりできることです。

次のリンクでアラザールのビデオを見てみましょう。[bit.ly/ Alazar-Getahun](https://bit.ly/Alazar-Getahun)

次のリンクでこの話の写真をみつけてみましょう。bit.ly/fb-mq.

2. 失くした靴下と迷信 コンゴ民主共和国



ジャック・ティシュバンダ・カバディ、17 歳

11 歳のジャック・ティシュバンダ・カバディは家で突然目を覚ましました。

ジャックを呼ぶ母親の声が聞こえます。

「ジャック、まだ寝ているの？ もう朝の 10 時よ。試験が受けられなくなるわ」

ジャックはベッドから飛び起きました。いつもだったら起きていいるのに寝坊したのです。今日は学校で大きな地理のテストがあります。

ジャックはズボンとシャツを着て、靴下を見つけるのに部屋中を探し回りました。棚を見ました。ひざまずいてベッドの下を見ました。しかしどこにも揃った靴下を見つけることができませんでした。

「何をしているの？」母親はドアの側に立って言いました。

「靴下が見つからないんだ」とジャックは答えました。

母親は戸棚を覗きました。ひざをついてベッドの下を見ました。彼女もまた、両足揃った靴下を見つけることができませんでした。でも、白い靴下と青い靴下を見つけて「これを履きなさい」と

言いました。

ジャックは急いで靴下を履いて、つま先を伸ばしました。彼は靴下が揃っていないことは気にしませんでした。地理のテストに間に合うことだけを気にしていました。

ジャックは学校まで走り、テストを受けました。

しかし、テストに合格したかどうかはわかりませんでした。

放課後、ジャックは歩いて家に帰るのに、車が多い通りを渡る必要がありました。片車線は渋滞で車が止まっていました。反対側にはまったく車がありませんでした。ジャックは車が通っていない車線を渡り始めました。その瞬間、バスとぶつかりました。バスの運転手は交通渋滞を避けるため、反対側の道路を運転していたのです。

ジャックは何が起きたのかあまり覚えていません。彼は地面に倒れて、見知らぬ人が彼のシャツを脱がせて出血を止めようとしていました。そして知らない人たちが彼を腕に抱え上げて、近くの病院に運びました。

ジャックの姉は友人から事故のことを聞いて、母親に伝えるために家に走りました。

「ジャックが交通事故にあった！」彼女は家の外から叫びました。

母親は家の中で祈り、それから病院に急ぎました。

ジャックは3ヶ月間病院に入院して、3回の手術を受けました。

母親は、ジャックがまた歩けるようになることが想像できませんでした。ジャック自身も想像できませんでした。しかし、2人とも神さまに祈り続けました。

手術の間、ジャックは毎回「神様、どうぞ僕を癒してください。そして両足でまた歩けるように助けてください」と祈りました。

今日、ジャックは歩くだけでなく走ることもで

きます。彼は 17 歳で、母親よりはるかに背が高いです。

何人かの迷信深い人達は、その日ジャックは学校に行ってはいけなかったと言いました。彼らは、ジャックが寝坊してなかなか靴下を見つけられなかった時にそのことに気づくべきだったと言いました。しかしアドベンチストは迷信を信じませんし、ジャックが寝過ごしたこと、靴下が見つからなかったことと事故との間に関係がないことを知っています。聖書には、「時と災難はすべての人に臨む」と書かれています（伝道の書 9：11 口語訳）。これは良いことも悪いことも偶然におこる可能性があることを意味します。

しかし、ジャックは、自分が歩き、走ることができるのは偶然ではないことを知っています。「私は歩いたり、走ったりすることができます。そしてこれは神様が僕の祈りに答えて下さったという証拠です！」と彼は言っています。

〈お話のヒント〉

- ・ジャックの故郷、コンゴ民主共和国のキンシャサを地図で探してみましょう。
- ・何人かの人々がなぜ、靴下を失くしたのは悪い兆候だと思うのか話してみましょう。皆さんの文化で一般的な迷信を話してみましょう、例えば木を叩くことや、あなたの通り道を黒い猫が渡るなど。クリスチャンが迷信を信じないのはイエスさまが全てを支配していると信じていることを説明してみましょう。

次のリンクでこの話の写真をみつけてみましょう。
bit.ly/fb-mq.

豆知識

- ・ボノボや東部低地のゴリラなどの類人猿は、コンゴでしか見つけることができません。

3. 100頭の牛を什一として献げる

タンザニア



アブラハム

アフリカのマサイ族は牛が大好きです。

老人が死ぬと、マサイ族の人々はそれを人生の一部と見なし、悲しみを越え歩みを続けます。赤ちゃんが死ぬと、同様に悲しみを越えて歩みを続けます。

しかし、大きな雄牛が死ぬと、マサイ族の男はひどく悲しみます。彼はその雄牛の強さ、かっこよさ、そしてその群れに対するリーダーシップについてを語ります。飼い主は一晩中横になりながらも眠らず、その死を嘆き悲しみます。

マサイの男は、牛は他の何にも替えられません。彼らは牛が大好きなのです。

ですから、裕福なマサイ族が彼の貴重な牛 100 頭を神さまへの什一として献げることを決心したことを聞いた時、アドベンチスト教会の指導者たちにとって大きな驚きでした。

アブラハムはタンザニア北部のアドベンチスト教会でバプテスマを受け、自分の牛の 10 分の 1

を什一として献げる決心をしたのです。アブラハムは牛を献げるために牧師に電話しました。「神様のものを私が持っていてはいけないと思います」と彼は言いました。アブラハムは驚いた牧師を自分の畑に連れて行き、10 分の 1 を数え始めました。

「1、2、3、4、5」アブラハムは、牛を数えました。

「6、7、8、9」

彼が 10 頭目の牛に到達したとき、彼は助手に什一として見わけられるように、牛の耳に札を付けるように言いました。

「これは主のものです」と彼は言いました。

彼は 100 頭の牛を数えました。

アドベンチストではないアブラハムのマサイ族の隣人は、気が狂ったと思いました。

ある人は「なぜあなたは牛を献げるのですか？」と言いました。

「100 頭の牛を 10 分の 1 として献げることができるなら、あなたの子どもたちを数えて 10 番目の子どもを什一として献げたら」などと別の人は言いました。

アブラハムには 20 人の子どもがいました。彼はこのバプテスマを受ける前に 4 人の妻と結婚していたからです。今、彼の妻は 1 人ですが、20 人の子どもたちの父親のままでした。アブラハムは隣人と口論はせず、こう言いました。

「私は聖書の中に 10 人も子どもがいなかった人を知っています。彼には 1 人しか子どもがいませんでした。そして彼はその子どもを喜んで神にお返ししたのです。彼の名前もアブラハムでした。」

アブラハムが 100 頭の牛を什一として神さまにお返しした後、彼の牛に不思議なことが起こりました。牛が双子を産み始めたのです。牛はたいてい一度に一頭の子牛を産みますが、アブラハムの

牛のすべてが双子を産み始めました。隣人たちはびっくりしました。アブラハムは 100 頭の牛を献げましたが、今ではそれ以上に多くの牛を飼っています。

「あなたの牧師を呼んでください」と隣人は言いました。「私も 10 分の 1 を献げたいです。」

「私たちの牛にも双子を産んで欲しいのです」ともう一人は言いました。

アブラハムは、神が彼をどのように祝福して下さったかに驚き、彼は 10 分の 1 だけでなく 10 分の 2 を返すと決心しました。アブラハムは再びアドベンチスト牧師に電話しました。

「9 カ月前に 100 頭の牛を献げたのは、何が起きるのかを見たかったからです」とアブラハムは言います。「私は非常に多くの祝福を得ました。1 頭の子牛ではなく、私の牛は双子を産み始めました。」

アブラハムは牧師を自分の畑に連れて行き、二倍の牛を数えました。

牧師は、神がアブラハムの忠実さをますます豊かにすることによって祝福されたことに驚きました。

「あなたが神に返しても何も失うことはありません」と牧師は言いました。「主は忠実です。神様はあなたが持っている少しのものを何倍にも増し加えられるでしょう。」

〈お話のポイント〉

- ・地図でタンザニアを探してみましょう。
- ・子どもたちに、お金以外に什一で献げることができるか質問してみてください。例えば、神さまは子どもたちに時間を与えてくれています、彼らはその時間で祈り、聖書を読み、そして他の人を助けるために時間を使って神様に時間を返すことができます。

次のリンクでアラザールのビデオを見てみましょう。[bit. ly/Abraham-Tanzania](https://bit.ly/Abraham-Tanzania)

次のリンクでこの話の写真を見てみましょう。

bit.ly/fb-mq

宣教メモ

- ・現在のタンザニアへの最初のセブンスデー・アドベンチスト宣教師は、W. エーラーズと A.C. エンスでした。彼らは 1903 年に L.R. コンラディの指導の下にドイツ教団から派遣されました。12 月にダルエスサラームに到着し、彼らは北東部のパレ地区に行き、そこでフリーデンスタールという伝道拠点を設立し、現地の言葉を学びながら少しずつ人々の信頼を得ていきました。

4. パパの変化

南スーダン



ピース・エヴェリン・ジョセフ 14歳

南スーダンでは、何千人もの子どもたちがホームレスです。ピース・エヴェリン・ジョセフはお父さんに空港に迎えに来てもらう時、彼らを見かけることができました。

ピースと彼女の兄、ボニフェスは、南スーダンの彼らの家から遠く離れたウガンダの寄宿学校で勉強していました。子どもたちは自分たちが特別であることを知っていました。裕福な家庭の子どもたちだけがウガンダで勉強することができたのです。

彼らの父親は金持ちでした。南スーダンで知事主事として働いていました。ピースとボニフェスが2週間の休暇のために家に帰るたびに、父親は新しいおしゃれな車に乗ってきました。父親は空港からその車で家まで送ってくれました。

しかし、車に乗る以外に、ピースは父とあまり関わりがありませんでした。父親は朝早く事務所に行き、仕事の後は友達と一緒にお酒を飲みました。ピースは欲しいものをすべて持っていたので、

何も心配することはありませんでした。

しかしある休日、父親は子どもたちに大切な話があるので加わるように呼びかけました。

「仕事を失くしたんだ」と父親は言いました。

「ウガンダのお前たちの学校にお金を払う余裕がない。お前たちはここジュバに残らないといけない。」

ピースは泣き出しました。彼女はウガンダで勉強するのが好きでした。彼女の友達は皆そこにいました。

「パパ、どうして？」彼女は言いました。

「お金がない」と父親は答えました。「パパの友達からお金を借りることはできないの？ 借りて後で返すことはできないの？」彼女は言いました。

「ことわられた」と父親は言いました。ピースは激しく泣きました。

家族はお金をめぐって苦労しはじめました。父はさまざまな仕事をしましたが、家族を養うために十分なお金はありませんでした。ピースとボニフェスが勉強していた公立学校の教科書の支払いさえもできませんでした。ピースとボニフェスは学校に行くのをやめました。生活は厳しくなり、彼らは何日もおなかをすかせました。

ある金曜日の夜、父親は酒を飲まないで帰宅しました。母は驚きました。父親は何も言わずに座ると、母親が持ってきた食べ物を食べました。それから父親はピースの弟、7歳のジュニアを呼びました。

「ラジオを持って来なさい」と父親は言いました。

父親はラジオの周波数を合わせました。そして、最初に聞こえたFMはセブンスデー・アドベンチストのラジオ局でした。父親は誰かが「立ち上がれ、イエス様のために立ち上がれ」と歌うのに熱心に耳を傾けました。それから牧師が神の愛につ

いて説教するのを聞きました。

説教が終わった時、父親は「誰かが私をとて愛しているのに、なぜ私は自分の人生を無駄にしているんだ」小声で言いました。

それから父親はアドベンチストのいところに電話をかけると、「ピーター、明日私はきみと一緒に教会に行きたい」と頼みました。

教会の後、父親はお酒を飲んでばかりで家族を軽視していたことを母親にあやまりました。父親は母親を次の安息日に教会に誘いました。すぐに両親ともバプテスマを受けました。

現在、父親は医療伝道の宣教師になるために勉強しています、そしてホームレスのストリートチルドレンを助けています。ピースは、父親が子どもたちに食べさせて、服を着せるのを手伝います。彼女が初めて手伝った時、父親を悲しくさせることを言いました。「これがパパがお酒を飲んでいたとき、私たちが経験していた苦痛よ。私たちは、両親に養われていないこの子どもたちのようだったわ。」

父親はそれが本当のことだとわかっていました。

「私は自分が何をしているのかわからなかった」と父親は答えました。「でも今、誰かが私を導いている。そしてその誰かは神様なんだ。神様は『私のようになれるから私に従いなさい。イエスさまと一緒にすばらしいことができるのです』と言って下さっています」

今期の 13 回献金の一部は、ピースの学校であるジュバ・セブンスデー・アドベンチスト中等学校が新しい教室を建設するのを助けます。第 13 回安息日のために寛大な献金を計画していただきありがとうございます。

〈お話のヒント〉

次のリンクでピースの父親ジョセフ・ケニーさんのビデオを見てみましょう。bit.ly/Joseph-Kenyi
次のリンクでこの話の写真を見てみましょう。

bit.ly/fb-mq

宣教メモ

- スーダンで最初の改宗者はムニー・アンドラウィスと彼の妻でした。 ベイルートの中東大学に通った後、彼らは 1955 年にスーダンに戻り、首都で宣教活動を始めました。彼らは救援服を配布し、聖書通信教育を推進しました。
- 南スーダンのジュバ市にある教会には医療センター、ムヌキ・セブンスデー・アドベンチスト・クリニック、聖書通信学校、ラジオ局、救世主 FM があります。

5. 神様かアイスクリームの選択 ケニア



アルバン・ハロルド 11歳

10歳のアルバン・ハロルドは学校から家に帰る途中、ポケットの中でコインがぶつかる音を聞くのが好きでした。お金があると彼は店に立ち寄ってナッツかアイスクリームを買うことができました。

ある日、聖書の先生が小学校5年生のクラスで話したことはアルバンに衝撃を与えました。

「あなたたちは、その週の間にすべての小遣いをナッツやアイスクリームに使うべきではありません。安息日に神様に献げるためにいくらか節約すべきです」と言ったからです。

アルバンは安息日に献金袋にお金を入れます。それは父親が安息日の朝に彼に渡したお金でした。

先生はそのお金についても話しました。

「あなたが教会であなたの両親からのお金を献金するとき、それはあなたの両親のために献げているだけです」と彼女は言いました。「あなたはあなた自身のお金を献げているではありません」

先生はマラキ書3：8を開いて読みました。

「人は神の物を盗むことをするだろうか。しかしあなたがたは、わたしの物を盗んでいる。あなたがたはまた『どうしてわれわれは、あなたの物を盗んでいるのか』と言う。十分の一と、ささげ物をもってである」

アルバンは先生が自分のことを批判していると思いました。そして彼は嬉しくありませんでした。でも、「たぶん先生はほんの少しだけ正しい」と思いました。

それは木曜日だったで、アルバンはその週のお小遣いはすでにすべて使っていました。彼は来週こそは神様のためにいくらかのお金を残すことに決めました。しかし次の週、彼は再び安息日の前にすべてのお金を使ってしまいました。翌週もそうでした。

2ヵ月が経ちました。そして、アルバンはひどく失望していました。彼は、「僕は一生懸命努力してるけど、献金するためのお金を残すことができない」と考えました。

ある日、彼と17歳の兄、アランは、家に帰るときにアイスクリーム屋の前を通り過ぎました。アルバンはポケットに20シリングのコイン（約20円）を持っていたので、彼はアイスクリームに使うことにしました。

しかしアランは止めました。「それは必要じゃないよ」と彼は言いました。「アイスクリームを食べながら歩き回るのは子どもっぽい。僕はアイスクリームを食べながら歩く人とは歩かないよ」

アルバンはいらいらしました。アイスクリームが欲しかったけど、兄と言いつくことは出来ませんでした。それで彼はアイスクリームを買いませんでした。

安息日になったとき、彼のポケットにはまだ20シリングありました。アルバンは両親がその日の朝にくれた20シリングと一緒にコインを献

金皿に入れました。自分のお金を神さまに渡すのは良い気分でした。彼は自分が本当にその献金のために望んでいたことをあきらめました。そしてそれは損ではなかったことに気づきました。

翌週もアルバンは 20 のシリングを残すことができ、彼はそれを献金として献げました。彼はその気持ちが好きでした！ 彼は安息日ごとに 20 シリングを献げること決めました。そして、彼は今日まで続けています。

驚いたことにアルバンは、二度とお金を使いきることはありませんでした。以前は、彼はその週が終わるまでにはお金を持っていませんでした。しかし今、彼はいつもその週に十分なお金が残っています。実際、彼はしばしば 20 シリング以上を残しています、そして彼は貯金するために父親に余分なお金を渡しています。

「僕は前よりも多くのお金を持っているような気がします。そして貯金するためにお父さんにお金を渡しています」と彼は言いました。

現在 11 歳のアルバンは、彼の両親に彼の特別な献金について話したことはありません。彼は自分がしていることについて自慢したくないと言いました。

時々彼はナッツやアイスクリームを買いたいという誘惑にあいますが、安息日に神様のために 20 シリングを持っている必要があることを自分自身に言い聞かせます。

「神さまの働きは僕が欲しいものより優れていることを思い出します」と彼は言いました。

〈お話のヒント〉

- ・地図でケニアにあるキスムを探してみましょう。
- ・子どもたちにイエス様にお小遣いを献げるよう勧めてみましょう。

次のリンクでアルバンのビデオを見てみましょう。[bit. ly/Alvan-Harold](https://bit.ly/Alvan-Harold)

次のリンクでこの話の写真を見てみましょう。

bit.ly/fb-mq

宣教メモ

- ケニアへの最初のセブンスデー・アドベンチスト宣教師は、カナダ生まれの A.A カールスカレンでした。カールスカレンは 1906 年にイギリスからやって来ました。カールスカレンは 14 カ月以内に伝道拠点を建設し、今まで書き残されたことがなかったルオ語を学んだことが報告されています。その後、彼はマタイによる福音書をルオ語に翻訳し、1913 年にロンドンのイギリスと外国聖書協会によって出版のために受理されました。

6. 恥ずかしがり屋の天使

ケニア



アビゲール・ニャティク 14歳

ナレーター：アビゲールが安息日の説教の後に並んで昼食を待っていたとき、7人の小さな男の子が彼女の注意を引きしました。

恥ずかしがり屋の14歳の女の子が教会でこの男の子たちを見たのはこれが初めてでした。年上の少年は8歳くらいで、年下は4歳前後でした。何人かの少年たちはショートパンツをはき、他の子たちは長ズボンをはいていました。どの服も汚れていました。

アビゲールは疑問に思いました……。

アビゲール：自分の子どもが汚れた服を着て教会に行くことを許すのはどのような親なんだろう？

ナレーター：アビゲールは男の子たちから目を離さないことにしました。

アビゲール：私は彼らを助けたいです。でも、どうやって？

ナレーター：アビゲールが不思議に思っていて見ると、男の子たちはケニアのキスムにある汚れた

床のシンプルな木造の建物でやっている幼稚科の安息日学校の教室の前にいました。何人かの女性が、米、インゲン、チャパティ、そしてキャベツサラダを男の子たちの皿に盛りました。

男の子たちは一緒に座って安息日学校の教室の外の原っぱで食事をしました。彼らは誰とも話ませんでした。食べた後、彼らは帰って行きました。

次の安息日、7人の男の子は再び昼食をとりに来ました。しかし今回は、他の子どもたちとも一緒に座って友達を作りました。

訪問者の少年1：ここは何という教会ですか？

教会の少年1：ビクトリー・セブンスデー・アドベンチスト教会だよ。

訪問者の少年2：朝の何時に教会に来るの？

教会の少年2：8時だよ

ナレーター：食事の後も訪問者は残り、パスファインダーとアドベンチャーが草原で行進するのを見ました。先生が男の子たちを行進に誘いました。少年たちは恥ずかしがって首を振りました。しかし、先生が勧めると、男の子たちは微笑んで行進の最後の30分に加わりました。それから男の子たちは帰って行きました。アビゲールはその少年たちを午後ずっと見ていました。

アビゲール：私は彼らの汚れた服を理解できない。彼らを助けたい。でも、どうやって？

ナレーター：次の安息日、7人の男の子たちは安息日学校に間に合うように現れて、初等科クラスに参加しました。彼らは礼拝を聞いて、そして昼食を食べました。その後、彼らはアドベンチャー

クラブに参加しました。

アビゲール：男の子をどうやって助けることができるかわかったわ！

ナレーター：アビゲールは安息日学校の先生のところに行きました。

アビゲール：すみません。7人の少年が汚れた服を着て教会にやって来るのはこれで3回目の安息日です。多分彼らは何らかの助けが必要です。私たちは彼らを助けることができますか？

先生：それは素晴らしいアイデアよ！ 少年たちのことを教えてくれてありがとう。

ナレーター：先生は男の子のところへ行き、彼らの家について尋ねました。少年たちは教会の近くに住んでいると言いました、しかし、両親は彼らが出席することを望んでいませんでした。それで、彼らは最初の2回の安息日は昼食のために教会に来ました。3回目の安息日に、彼らの両親は彼らが行くことを許可しました。

先生はまた、男の子たちの両親はあまりお金を持っていないことを知りました。それで、彼女は男の子たちのためにアドベンチャークラブの制服のための募金活動を組織しました。何人かの教会員は青と白の布、そして他はその布を制服に縫いあげました。少年たちは新しい服を受け取ることに興奮していました！

アビゲールも幸せでした！ 彼女は男の子たちが教会で友達になってイエス様について学ぶのを見て嬉しかったのです。

7ヶ月が経ちました、そして、男の子は安息日ごとに教会に来ています。しかし、彼らはもはや汚れた服では現れません。彼らのアドベンチャーの制服でいつも清潔できちんとしています。

ここに興味深いことがあります。今日まで、7人の少年たちはアビゲールがアドベンチャーの制服を彼らがもらえるよう手助けしたことを知りません。彼らは彼女が彼らを見ていたことを知りま

せん。彼らは彼女が存在することを知りません。男の子とアビゲールは話し合ったこともありません。アビゲールは、彼女が彼らにしたことを知られたくないのです。事実、先生以外には誰も彼女の優しさを知りません。

アビゲール：なぜ彼らを助けたかったのか私にもわかりません。私はこの欲求を私の心に抱いていました。私はこの7人の男の子たちが大好きです。私は彼らが友人や両親を教会に連れて来ること、そしてまた彼らがいつの日かバプテスマを受けることを願っています。

ナレーター：この3ヶ月間、私たちは、神様が東中央アフリカ支部に住んでいる人々の生活の中で行っている素晴らしい物語を聞いてきました。今日、私たちの第13回安息日献金は、アビゲールが7人の少年たちを手助けしたビクトリー・セブンスデー・アドベンチスト教会の敷地内にアドベンチスト病院を建設するなど、東中央アフリカ支部の7つのプロジェクトを支援します。アビゲールのように、私たちは他人を助けるのに承認を必要としません。イエスさまが間もなくやって来るという良い知らせを広めるのを助けるための献金を感謝します。

〈お話のヒント〉

- ・この劇にはナレーター、アビゲール、先生、教会の少年1と2、訪問者の少年1と2、そして他の5人の少年の役割を演じる12人の子どもが必要です。子どもたちはセリフを覚える必要はありませんが、自分の言葉でも言えるくらいこのお話をよく知っていなければなりません。ナレーターの言葉にしたがって、各シーンを演じることが出来ます。
- ・アビゲールの名前はアービーゲイルと発音します。
- ・ナレーターがこの話を紹介するときにスクリーンでケニアのキスムを見せて下さい。
- ・アビゲールのように誰かを秘密で助けてみまし

よう。

次のリンクでアビゲールのビデオを見てみましょう。bit.ly/Abigalle-Nyatich

次のリンクでこの話の写真を見てみましょう。

bit.ly/fb-mq

〈13 回安息日プログラム〉

13 回安息日の前に：

・保護者へお知らせを送り、9 月 28 日の 13 回安息日プログラムを覚え、子どもたちが 13 回献金を持っていくよう励ましていただくことができるようにする。

・私達の伝道地献金は、神様の言葉を世界中に伝えるための贈り物であること、そして 13 回安息日献金の 4 分の 1 が南太平洋支部における 4 つの事業に直接用いられることをすべての人と確認する。それらの事業は、『聖書研究ガイド』の最後のページと裏表紙に書かれています。

〈来期の伝道計画〉

来期の 13 回献金は中央ヨーロッパ支部に送られます。

- ブルガリアのソフィアにおいて教会と子どもセンターを作る。
- チェコ共和国のプラハにおいて弱い立場にある子どもたちのための教育支援プログラムを確立する。
- ドイツのダルムシュタットにおいてマリエンホーヘ・アカデミーの本館を改装する。
- スペインのバレンシアにおいてサグント・アドベンチスト・カレッジの多目的ビルを拡大する。